

国立音楽大学講義室スピーカー更新

学校法人国立音楽大学 坂下雄一

はじめに

国立（くにたち）音楽大学は、前身である東京高等音楽学院として1926年に現国立市に開校した。これが、校名の由来である。その後、1966年に立川市に移転し、現在に至っている。現在も幼稚園から高校までの附属各校は国立市に所在している。

この度、講義室のスピーカーを更新するきっかけとなったのは、老朽化による性能低下が顕著であったことが一番の理由である。音楽大学という音楽を専門的に扱う教育機関として、演奏環境や演奏そのものの「音」に関しては様々な議論の対象となるが、生音以外の「音」を聴く環境に関しては意外と関心が低いといったことがある。演奏家にとって音を聴くという行為は、一般人よりもっと繊細なレベルで行っており、また微妙なニュアンスの違いも聴き分ける能力が必要不可欠である。「音」に対する意識を高めることでこれらの能力向上の一助になればと考えリスニング環境の整備を考えた。

講義室概要

一般教養科目や教職関係、音楽系の講義科目用として大規模な講義室、音楽専門教育科目や語学系の授業用として小規模な講義室が設置されている。音楽大学の授業運営の特徴でもある、音楽を聴くあるいは映像資料を見るといったことが頻繁にあるため、殆どすべての講義室に再生環境が設備されている。大規模な講義室には講師が使用するマイク用に天井埋め込み型スピーカー（最大6機程度）と音楽再生用として別システムの設備が存在する。小規模な講義室では、マイクの使用を必要としないため、音楽再生用の設備のみとなっている。音楽再生用のシステムは従来からPA用途のものではなく、民生機のHiFi志向のものを

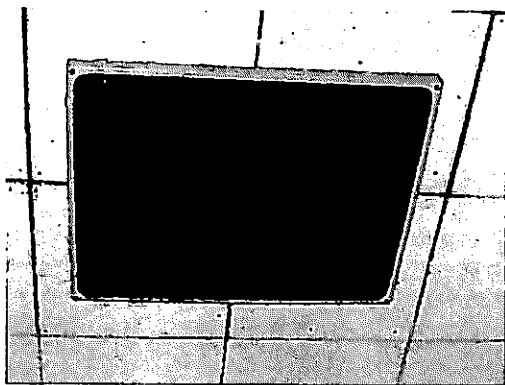
セレクトしており、主にヨーロッパ製のものが多くなっている。これは、音楽的な再現力を重視しての選択である。

エルシースピーカーとの出会い

株式会社エルシー電機・石塚社長との出会いは、数年前に開催された日本音響家協会のイベントに参加したときであった。イベント終了後の懇親会でちょうど席が隣り合わせだったという妙な縁である。色々話を伺っているうちに、同社のスピーカーは単なる工業製品というコンセプトで生産されているのではないということがはっきりと分かった。しかし、石塚氏の言葉からは、当社のスピーカーは脳が活性化するとか、ある幼稚園へ納入したら、これまで騒いだり泣いたりしていた子がおとなしくなり泣き止んだとかという話で、全く信用出来ず（失礼）単なる営業トークだろうとしか当時は思っていなかった。しかし、何かが気になる…そんな日々が数ヶ月続いた後、実際に試聴してみたくなりデモ機を本学のマスタリングルームに持ち込んでもらい、しばらく体験させて頂いた。まず感じたことは、スピーカーの存在を感じさせないということだ。また、人工的な感じは全くなく、音楽に包み込まれるような心地よさがある。音が柔らかい。しかし、芯はしっかりしていて繊細さも兼備している。マスタリング用に使っているヨーロッパ製のモニタースピーカーとは明らかに性格が異なる。このモニタースピーカーを否定するつもりはないが、石塚社長の設計コンセプトが分かった気がした。

スピーカーの更新

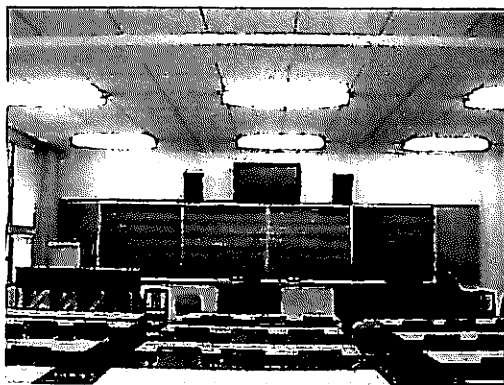
検討の末、同社の製品を採用することとし、設置を行った。前述の大規模な講義室にはスピーチ用としてLCC-80SK（天井埋込型）を導入、そ



LCC-80SK天井埋込SP

の他の講義室にはLCC-M3を導入した。LCC-80SKについては、あえてスピーカーネットを従前のままとし、外見上からは更新したことが分からないようになっている。

運用を開始し自らが体感したこととして、まずLCC-80SKに関して言えばマイクを使って話していても疲れにくいということだ。これまでのようにマイクを意識してしまう感覚が全くない。1対1で会話をしているときの感覚で話せば十分だ。これには本当に驚いた。また、先日聴く側の体験もしたのだが、明瞭度がまるで違い全く聞き疲れしない。音楽は、ある程度先を予測しながら聴いているので、多少環境が悪くても慣れればそれなりに聴いてしまうが、スピーチはそうは行かず、注意深く言葉を聞くことに神経を注がなくてはならず非常に疲れる。今回はこれが全くなかった。また、このときにも感じたのは、スピーカーを意識させないと言うことだ。近くで喋っているような錯覚に陥る。もう一つは、この体験をした日は午後2時からで食後ということもあり、ちょうど睡魔に襲われる時間帯である。スピーチをした講師は話し方が単調で、声のトーンもちょうど眠気を誘う。この講師のスピーチは更新前に同一の条



講義室LCC-3 SP

件で何度か聞いているが、今回は眠気が起きない。理由は分からないが、これが脳の覚醒効果か？などと一人で思っている。学生の中にも何かが違うといったことに気付いた者がいた。

一方、LCC-M3だが、こちらを導入した講義室は特別な防音設備はなく、これまでは廊下にいると結構、中の音が漏れていたのが減少したように感じる。同社のスピーカーは1/50秒で音が消えるというが、このことが関係しているのかも知れない。

音楽と脳

石塚社長はスピーカーが脳に与える影響を研究しておられる。何とも好奇心を持たせてくれるテーマである。本学のように音楽に携わっている人間の集団というのはある種、特殊な環境にあるといえる。音楽を違った角度から見つめ直す実験として、音楽家と一般人との脳の比較、また、スピーカーを使って行う音楽活動(コンピュータ音楽、電子楽器、リトミック等)がスピーカーの違いによってどのような変化が起きるのか等を今後研究してみたいと思っている。

【さかした ゆういち】